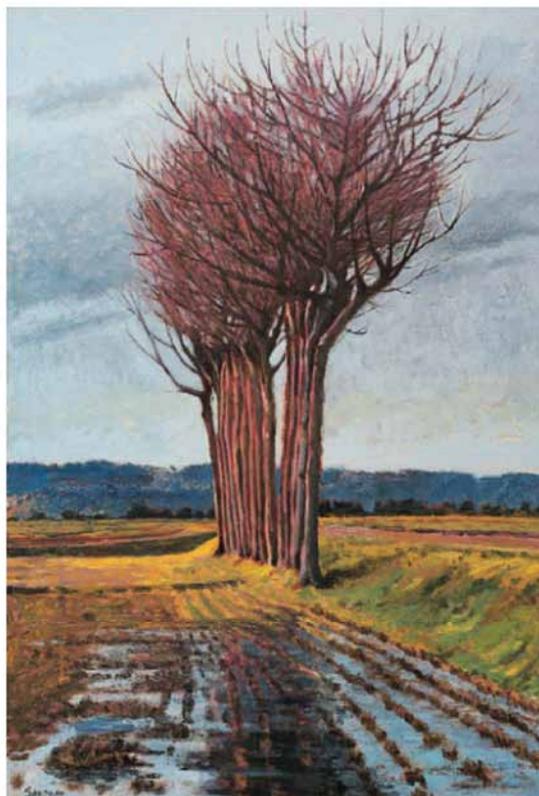


特集 没後1年 村田省蔵展—大地を描く【近現代絵画】



村田省蔵《凍として》
—「村田省蔵展」より—

■ 絵画優品選【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 名刀と刀絵図【古美術】

■ 新収蔵品と優品【近現代絵画・彫刻】

■ 手わざの手ざわり【近現代工芸】

- 7月の企画展示室
- 展覧会回顧 脇田和と猪熊弦一郎～モダンの展開～
- バスツアー報告
- 夏休み体験講座
- 7月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

第4展示室

没後1年 村田省蔵展—大地を描く

主催：石川県立美術館 後援：北國新聞社

6月14日(金)～7月22日(月) 会期中無休

学芸員の眼

村田の画家としての稲架木との出会いは、平成五年六十四歳の頃のことでした。新潟県の岩室村で田のあぜ道に立ち並ぶ姿を見て感動したのです。稲架木は稲の収穫時、木々に横木を通して稲束を架けて乾燥に使うものです。幹の枝が切り落とされ、頭頂に梢が繁る様子は一人の人間のようにも見えます。冬に雪をかぶって立つ姿、春先に今秋の実りを待つ姿、それぞれに個性や喜怒哀楽が託されています。

造詣の面白さを打ち出したものから、人と自然とのかかわりを描くもの、季節を冬から春に移し装飾性を加えたもの、さらに、晩年では稲を稲架木に架けたものなど、村田はこれまでの画業のあゆみを、一本一本の稲架木に託して描き綴ったのでした。



村田省蔵《春めく》

村田省蔵は昭和二十一年、十七歳で金沢美術工芸専門学校一期生として入学します。同級生は鴨居玲や円地信二など。絵に進むきっかけは、前年十月開催の第一回現代美術展で、宮本三郎の「少女像」を見て感激したことといえます。

卒業後一年間研究室に残るのですが、その時教授として赴任し、後に師事することとなる小絲源太郎と出会います。小絲の「上京して来い」という言葉を信じ、金沢の家を処分し、母と共に上京したのは二十六年、二十二歳の時でした。小絲の教えは、現場百遍ともいうべきもので、絵をじっと見て、「もう一度現場へ行って来い」とのくり返しでした。自然から受けるものを自分の力で咀嚼しろということだったのでしよう。

当時の日本の美術界は戦時期の暗い写実を脱ぎ捨て、欧米の抽象美術に触れて、抽象が大流行を見せ始める頃です。若い村田はどう風景を描いていくかと苦闘したのではないのでしょうか。三十二年の《水門》は川面のさざ波や少し顔を覗かす船が穏やかな興趣を添えています。巨大な水門のコンクリートや黒い鉄扉が荒々しく、面々と続いてきた情景が裁断されていくかのようです。そして、重く暗い自己の色感に悩み、小絲に「どこかへ行ってくるのだな」と言われ、メキシコを旅して明るい色彩を画面に加えることに成功するのです。その後、富良野の雄大でカラフルな景色に魅了されて始まる北海道シリーズをへて、ライフワークとなる木々の造形力と稲の実りに思いを馳せた稲架木シリーズに至るのでした。



村田省蔵《水門》

名刀と刀絵図

6月14日(金)～7月22日(月) 会期中無休

今回の展示では、重要美術品の《刀絵図》が初めて全巻公開されています。そして、本作に収録されている四十口のうち、十二口が栗田口藤四郎吉光の作であることから、白山比咩神社のご高配により国宝《剣銘吉光》の展示が実現しました。もちろん《刀絵図》に本剣が収録されているわけではありませんが、本剣の展示により、吉光の真骨頂ともいえる品位ある美しさをとおして、豊臣秀吉が吉光を深く愛好した理由の一端をご理解いただくことができるのではないかと思います。

吉光は、特に短刀や剣の作刀に優れた手腕を発揮していますが、本剣は吉光に限らず、日本刀剣史上、剣の遺作のなかで最も著名なものとなっています。来歴は、徳川家光の養女阿智子(水戸・徳川頼房の娘、

王の伯父にあたることから、本作は婚儀に際して宮家から富姫へ贈られた可能性が高いと言えます。

続いては《鳥画帖》です。本作は、江戸時代十七〜十八世紀にかけての、本草学から博物学への関心の拡大を反映して制作されたものです。特に、鳥を生態によって分類している点は注目され、描写の完成度の高さとおわせて、教材として大名家での学習に使用されることを念頭に制作されたものと考えられます。

なお鳥の姿態は類型的なものが多く見られることから、実物を観察して描いたのではなく、狩野派系の粉本類を参考にしたようです。今回は、三帖のうちの第一、二帖を展示します。

清泰院)が、加賀藩四代藩主・前田光高に嫁した際の持参品で、清泰院が死去した翌年の明暦三年(一六五七)に、子である五代藩主・綱紀が、母の冥福を祈って白山比咩神社へ奉納しました。

そして今回は加州刀から清光と兼若を選びました。まず《脇指 銘清光》ですが、これは「赤羽刀」で国から譲与されたものです。当初は新刀期のものとして受け入れられましたが、研磨後に専門家を交えた詳細な検証を行った結果、室町時代末の古刀期のものとの結論に至りました。同様に「赤羽刀」の《刀 銘加州金沢住藤原清光作》も、江戸時代十八〜十九世紀の作として当初は受け入れられましたが、十七世紀の加州清光六代の長兵衛作と判定しました。



国宝《剣 銘吉光》白山比咩神社蔵

絵画優品選

6月14日(金)～7月22日(月) 会期中無休

今回は、前号で紹介できなかった優品の見所を紹介いたします。最初は《女三十六歌仙色紙雑図》です。本作は六曲一雙の小屏風で、金地に雉の親子と躑躅を中心に、春から夏の草花を描き、その上部に、女流歌人三十六人の歌と肖像を描いた色紙を貼り付けたものです。雉は夫婦和合や子孫繁栄を象徴するものであり、和歌で「躑躅花」は花の色が美しいことから、「にほふ」にかかる枕詞として、女性の輝くような美しさを形容します。また本作の旧貼紙に「歌仙小屏風／随庵筆〔欠〕／壹雉〔欠〕／真照院様御遺物」とあることから、寛永十九年(一六四二)に八条宮智忠親王に輿入れした利常の女富姫の遺愛品であることがわかります。色紙に書かれた和歌の筆者とされる随庵は、智忠親

王の伯父にあたることから、本作は婚儀に際して宮家から富姫へ贈られた可能性が高いと言えます。

続いては《鳥画帖》です。本作は、江戸時代十七〜十八世紀にかけての、本草学から博物学への関心の拡大を反映して制作されたものです。特に、鳥を生態によって分類している点は注目され、描写の完成度の高さとおわせて、教材として大名家での学習に使用されることを念頭に制作されたものと考えられます。

なお鳥の姿態は類型的なものが多く見られることから、実物を観察して描いたのではなく、狩野派系の粉本類を参考にしたようです。今回は、三帖のうちの第一、二帖を展示します。

《女三十六歌仙色紙雑図》

第5展示室

手わざの手ざわり 【近現代工芸】

6月14日(金)～7月22日(月) 会期中無休

前号では①展示作品の重さを掲示する②細部を見せる工夫をする、という本展示のアプローチについてご紹介しました。②について具体的にお話ししましょう。当館の工芸展示室ではケースを移動させることが難しく、常にほぼ同じレイアウトで作品を展示しています。ケースの高さが変更できないため、作品の内部や、底面を写す鏡台かがみだいをのぞき込むことが難しいというご意見もいただいています。そこで、今回は先に学芸員が作品の内部・断面・底面など普段見られないところを撮影しました。手わざのあとや、心地よい手ざわりのために凝らされた工夫は、作品の裏側に残されていることも多く、また間近に見なければ気づかないこともしばしばです。美術作品としては正面から観賞することが王道ですが、皆様に工芸作品をより身近に感じていただくため、このような

方法を取りました。
さて、とはいえ「見るだけじゃなくて、さわってみたい！」というお気持ちの方もいらっしゃるでしょう。そこで限られた時間ではありますが、左記のような企画をご用意しています。

「手わざの手ざわり さわってみよう」
日時…六月三十日(日)午前十一時～十一時三十分
対象…中学生以上、十名(先着順)
参加費…コレクション展観覧料(団体料金)
受付は十時四十五分から、二階第5展示室前にて行います。展示作品に近い技法の工芸品(当館備品登録のもの)に触れていただき、担当学芸員が展示を解説します。



《大島紬松皮菱に花の丸文着物》

第3・6展示室

新収蔵品と優品 【近現代絵画・彫刻】

6月14日(金)～7月22日(月) 会期中無休

「新収蔵品と優品」について前号では、全体についてご案内しましたが、今号では興味深い作品を何点か選んでみましょう。

まずは、当館にとって念願の初収蔵となる写真分野の作品、吉川悦陽《人間疎外》です。吉川悦陽は大正三年に生まれ、石川写真界を牽引してきた写真家です。本作はモノクロームで撮影した城門の乳鉢をコピーした手法、そして《人間疎外》というテーマに時代性を感じさせ、当時のモダンアートの有り様をよく表している作品です。

日本画分野から、富田温一郎の二隻の屏風ですが、どちらも成田山参道に構えていた老舗旅館にあったものです。富田は作品を成田山に奉納しており、その頃の縁によるものでしょうか。中でも水墨《信州内山

峡》の筆運びは、古くから日本画で描かれた水墨のそれとは異なり、洋画家のスケッチといえるものです。「山水画」で括るよりは、「真景図」としたほうがしっくりときます。

鉛筆画で知られる木下晋の《自画像》は、鉛筆ではなく、油彩によるものです。独自のタッチや色彩は、鉛筆画とはまたひと味違う怖さを感じる一点です。

田中昭の彫塑《遊びごころ》は、たらいにつかる子どもをモチーフにしています。その様子はあどけなさよりも無心な気高さを感じさせ、蓮華座に結跏趺坐する菩薩を見立てているかのようです。《遊びごころ》とした題は、テーマに「見立て」を用いた作者の「遊びごころ」とすれば得心いくのではないのでしょうか。



田中昭《遊びごころ》

第7・8・9展示室

第29回

北國水墨画展

7月11日(木)～15日(月・祝) 会期中無休

石川県内の水墨画愛好団体を網羅した統一展です。県水墨画界の結束を図るとともに、愛好者拡大を目指すねらいの展覧会で、作品は広く愛好者から公募して審査します。入選、入賞作に委嘱作品も併せて展示し、水墨画の魅力を伝えるものです。

◇入場料／一般・高大生：五〇〇円(四〇〇円)

()内は前売料金 中学生以下無料

◇連絡先／金沢市南町二番一号

石川県水墨画連盟

(北國新聞社事業局内)

電話：〇七六一二六〇一三五八一

第7展示室

第10回

石川県日本画会展

7月3日(水)～7日(日) 会期中無休

「日本画を志すものが、これまでの既有的概念や会派にとらわれることなく、自由で新しい発想によりそれぞれの日本画制作をすることを目的とし、会員相互の協力によってその研究・模索と石川県内の発表の機会を設け、自己の研鑽に努め、石川県の美術文化の発展に寄与する。」とし、日本画の会をスタートして今年で十年目になりました。

若手からベテランまで年齢層は幅広く、モチーフも風景や静物、人物・動物や植物、具象や抽象など多岐にわたり、その視点や表現方法は個性豊かです。ぜひ、この機会に石川県内の日本画家の意欲作をご覧ください。

◇入場無料

◇連絡先／輪島市鶴入町二一三七

石川県日本画会事務局長 宮下和司

加賀友禅技術保存会は、現在十名の友禅作家が会員に認定されており、加賀友禅の正統な技術保存と後継者育成のため、石川県の無形文化財の指定を受けています。その主旨を推進するため、毎年開催しているのがこの展覧会です。

第三十二回展より公募制を採用したことで、広く一般の方々も出品出来るようになりました。加賀友禅における新しい感性と創造的作品の数々をご覧ください。

※毎日十三時三十分より作品解説があります。

◇入場料／四〇〇円(三〇〇円) 高校生以下無料

※()内は二十名以上の団体料金

◇主催／加賀友禅技術保存会

◇連絡先／金沢市小將町八一八 加賀友禅会館内

伝統加賀友禅工芸展事務局

電話：〇七六一二二四一五五一

第8・9展示室

2019 北陸二紀展

7月18日(木)～22日(月) 会期中無休

二紀会は「類型化を排する。具象・非具象を論じない。創造的な個性の発現を尊重する。情実を排し新人を抜擢し、積極的に世に送る」の主張を掲げて昭和二十二年以来活動を続けています。

北陸二紀展(研究会展)は北陸支部会員が、第七十三回二紀展に向けて制作した作品を展示いたします。

世評を問い、あわせて南口清二・二紀会常務理事をはじめ委員の批評と指導を受けて作品の質の向上を図ります。この機会に是非ご高覧賜りますようご案内申し上げます。

◇入場無料

◇後援／北國新聞社、テレビ金沢、北陸放送

◇連絡先／白山市田地町二十七 太田 喜代司

電話：〇七六一二七五一八一二五

第8・9展示室

第41回

伝統加賀友禅工芸展

7月3日(水)～7日(日) 会期中無休

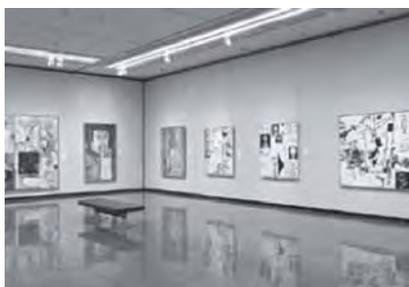
脇田和と猪熊弦一郎～モダンの展開～

平成31年4月20日(土)～令和元年6月9日(日)

本展は脇田和と猪熊弦一郎という、戦後美術界をリードしてきた交友の深い両作家を通して、日本モダンアートの一シーンをご覧いただくこととした試みです。二人のビッグネームから、開催を心待ちにする声をよく聞きました。

私生活ではたがいを兄弟のように思っていた二人ですが、作風や制作姿勢では対極を為していたことが、本展で浮き彫りになりました。そのあり方は「内向と外向」「構築と変革」と表現できるでしょうか。脇田和は自作とじっくり対峙し、納得いくまで色やかたち、マチエールを追い続けた画家です。昭和三十年代以降、作風に大きな変化は認められず、ひと筆ひと筆、自らの芸術を構築し続けた作家といえます。対する猪熊弦一郎はピカソやマティスの影響から脱却することに苦心し、作風は変化の連続でした。そこから、あの「絵には勇気がいる」との言葉が生まれたのではないのでしょうか。対極的なふたりの作品に共通すること、それは「そこに何が描いてあるか」ではなく「どのように美しいか」がわかる素直な鑑賞眼を要したということでしょう。

実は二人の作品が同一会場に並んだことは初めてである、脇田美術館理事長の脇田智氏が喜ばれていました。二人が没して既に長い時間が流れましたが、あらためて両作家の芸術を検証する機会を得たことを嬉しく思います。最後に、本展開催にあたり多大なご協力を頂いた丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川県立ミュージアム、脇田美術館にあらためて感謝申し上げます。



「脇田和と猪熊弦一郎」 展会場風景

美術館友の会

第17回バスツアー報告

令和元年5月19日(日)実施

今年の春の日帰りバスツアーは「珠洲をめぐる」と題して、石川県の輪島市、珠洲市を巡りました。

まずはじめに北陸三十三観音霊場特番札所で北陸三十六不動霊場五番の金蔵寺へ。バス車内で金蔵寺の簡単な解説後、境内を自由に散策し、普段なかなかみることができない輪島市指定文化財の《木造不動明王立像》(十二世紀)などを見学しました。次に、国指定重要文化財の木造民家で、鎌倉時代様式の庭をもつ本家上時国家へ。こちらでは、解説を聞きながら調度品や建物について知見を広げました。

旬の焼き魚定食の昼食をはさんで、午後はまず須須神社へ。須須神社は日本海一帯の守護神とされ、崇神天皇の時代に創建されたという言い伝えのある由緒ある神社です。こちらでは、宮司様から宝物殿の宝物に関する解説をいただいた後、高さ十六メートルにもおよぶキリコを見学しました。最後は珠洲焼資料館へ。珠洲焼についての解説を頂きながら、中近世の珠洲焼やその歴史に思いを馳せました。またこちらでは、珠洲焼以外に色絵のやきものである正院焼も見学しました。

気持ちの良い晴空にも恵まれ、ご参加の皆様や各見学地の皆様により全行程を終えることができました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。



須須神社・拝殿前

小学生親子対象

夏休み体験講座 参加者募集！

夏休み恒例の展示『親子で楽しむ美術館』のテーマ「かお・カオ・顔」にちなんだ制作をはじめ、工芸体験など親子で楽しんでみませんか。

【鑑賞講座】

◆全学年対象「かお・カオ・顔を楽しくかこう」

日時：八月三日(土) 十三時半～十五時

内容：コレクシヨン展「かお・カオ・顔」の鑑賞と、
かんとんに、そして、楽しくいろいろな表情の
顔をかく体験をします。

定員：親子二十名 参加費：無料

申込：当日先着順(受付：十三時～)

【制作活動等体験】

◆全学年対象「顔をみつけて、パチリ！」

日時：八月一日(木)～八月十二日(月・振休)

内容：身の周りや街の中で、顔に見えるものの写真を
を撮影しコメントと共に美術館に投稿しま
す。

投稿方法：LINEの石川県立

美術館公式アカウント

に投稿。



◆四・五・六年生対象「ひきもの体験 おわんをつくる」

日時：八月五日(月) ①十時 ②十一時 ③十三時半

④十四時半 ⑤十五時半

内容：制作と鑑賞で一時間の活動。ロクロで回転さ
せた木に刃物をあてて削り、親子でひとつの
おわんを作ります。漆で仕上げし、十月中旬の
お渡しです。

定員：親子二人一組、計十組

参加費：親子で二千五百円

申込：往復はがき(下記参照)にて 七月二十六日(金)

必着

◆全学年対象「おしゃべり顔図鑑」

日時：八月七日(水) 十三時半～十六時

内容：飛び出す絵本の技法を使って、色画用紙で口がパクパク動く顔を作り、
絵本仕立てにして完成させます。

定員：親子十五組 参加費：ひとり百円

申込：往復はがき(下記参照)にて 七月二十六日(金)必着

【子ども一日学芸員】

◆四・五・六対象「子ども一日学芸員」

日時：八月九日(金) 九時半～十五時半

内容：美術館やそこで働く学芸員の仕事、また作品の楽しみ方を学びます。
定員：親子五組 参加費：無料

申込：往復はがき(下記参照)にて七月二十六日(金)必着

●往復はがきでの申し込み方法

〒九二〇〇〇九六三 金沢市出羽町二の一

石川県立美術館 キッズ・プログラム係あて

往信欄に、参加希望の講座名・参加者全員の氏名・学年・住所・電話番号を記入。

「ひきもの体験」は希望時間帯を第三希望まで明記。

*定員を上回った場合は抽選となります。

*「おしゃべり体験」「ひきもの体験」「一日学芸員」には無料の託児サービスが
あります。詳しくはお問い合わせ下さい。

7月の行事予定

■土曜講座	13時30分～15時	美術館講義室	無料
6日(土)	「絵画の見方―主題いろいろ―」	学芸主任	中澤菜見子
13日(土)	「加賀藩お抱え絵師 佐々木泉景」	学芸員	有賀 茜
20日(土)	「時代から読む美術―名作の背景―」	担当課長	前多武志

石川県指定文化財《刀 銘越中守藤原高平 花押》かたな めいえっちゅうのかみふじわらたかひら かお

初代辻村兼若 しょだい・つじむら・かねわか

長さ74.5cm 身幅3.0cm 反り1.1cm 元和7年(1621)

江戸17世紀



本作は、形状や鍛・刃文・彫物などが、重要美術品で慶長年紀銘のある初代兼若の作品に酷似し、初代辻村甚六兼若・高平同人説を証明する資料として、また初代兼若の晩年作として日本刀剣史において重要視されています。本作の形状は、鑄造、庵棟で身幅は元先の差が少ないのが特徴です。鍛は、板目に柁を交え、刃文は矢筈交じりの互の目です。彫物は、表裏一本の樋を中心に掻き流しています。銘は「越中守藤原高平(花押)元和七年十二月日」とあります。

初代兼若は美濃の出身とされ、加州に移住した後、本来の単調な関伝より転じて、変化に富んだ相州伝や、華麗な備前風など、時代の好みに合わせた幅広い作風を展開しました。そして江戸時代初期の元和7年(一六二二)に越中守高平となり、「加賀正宗」の世評を受け、名声が一段と高まったことから、他の刀工も初代兼若の作風に同調するようになりました。したがって加州新刀は、初代兼若によって明確に方向付けられたということができます。現存する作品から、初代兼若の活躍した時期は、慶長十二年(一六〇七)から寛永五年(一六二八)までと考えられます。今回は、三代兼若(一七一一年没)の代表作である《刀銘賀州住兼若》(原文も併せて展示していますが、この三代の後に兼若の作刀は急速に退潮してゆき、四代で一応終止符が打たれます。

次回の展覧会

令和元年7月27日(土)
～8月26日(月)
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	前田家の名宝 I	描かれた人物 さまざまな表現
第3・4展示室	第5展示室	第6展示室
夏の優品展 【近現代絵画・彫刻】	ひく・さす・ほる 石川木工芸の現在 【近現代工芸】	夏休み 親子で楽しむ美術館 かお・カオ・顔 【近現代絵画・彫刻】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 360円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
7月1日は第1月曜日より
コレクション展示室無料の日

7月の開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後7:00 年中無休

7月の休館日は
23日(火)～26日(金)

「石川県立美術館だより」に広告を掲載しませんか?

石川県立美術館友の会会員、石川県立美術館協力者、
県内各行政機関及び文化施設、全国の美術館・博物館へ

郵送配布!! 3,000部発行

ターゲットを狙った
知名度向上

県立美術館発行の
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせ ☎092-716-1401

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5MG薬院ビル7F
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 財源確保 信頼

石川県立美術館だより
第429号(毎月発行)
2019年7月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。